

削減こだわった1000億円

迷走を続けた新国立競技場の整備がようやく動き出す。安倍晋三首相による旧整備計画の「白紙撤回」から1カ月余り。28日に決まった新計画で、政権が重視したのは、批判を浴びた建設費の1千億円を超える削減幅だった。だが、スポーツ界などの受け止めは様々。2020年東京五輪・パラリンピックの主会場として、国民に歓迎される競技場にできるかどうかは、まだ見通せない。

新国立計画

時刻時刻

冷房見送り首相の一声

「暑さ対策かち割り氷だつてある」

「従来の案より1千億円以上削減し、大幅なコスト抑制を達成できた」。28日朝、官邸であった新国立競技場の整備計画に関する関係者会議。首相は、建設費を1550億円に絞り込んだ新計画に胸を張った。建設費が2520億円に膨らんだ旧計画に批判が集まり、首相が白紙撤回を決めたのは7月17日。重視し

たのは「1千億円」という削減幅と新たな建設費に説得力を持たせることだった。まずは、3年近く携わってきた下村博文文部科学相から、遠藤利明五輪担当相へと責任者を交代させた。遠藤氏のもと新たに設けた再検討推進室に、予算査定に慣れた財務省、大型公共事業にノウハウのある国土交通省の出身者を集めた。

「暑さ対策なら、『かち割り氷』だつてある」。首相は夏の甲子園名物を挙げ、遠藤氏に冷房施設の断念を指示。「首相主導の政治決

旧計画に反対し、屋根は観客席上部だけにして常設の観客席を6万人以内にするべきだとの対案を示していた建築家の横文彦氏は、「自分の案に近づき、格段

に良くなった」と話した。ただ、常設席を6万8千人に抑えたことで、問題は生じそう。東京は招致段階で、選手の負担減のために開会式で行進後に客席に座れるようにすると公約した。日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長は「6万8千席で公約を守ろうとすれば、当然、観客用の座席は減る」。観客席の空調も取り付けられないことになったが、パラリンピック陸上の佐藤真海選手は「障害で体温調節が難しい方もいるので、暑さ対策もぜひ何らかの工夫をしてほしい」と要望した。

新国立競技場の新旧計画の比較	
旧計画	新計画
整備費	
2651億円 ※これまでは2520億円と公表していた	1550億円を上限に
観客席数	
8万 (うち1万5000は仮設)	6万8000 (8万への増設も可能にする)
屋根	
2本のキールアーチ構造。五輪後、フィールド上部に開閉式屋根を設置	観客席の上部のみ
観客席の空調	
あり	なし
デザイン選定方法	
デザインのみを国際コンペにかけ	デザイン、設計、施工の一体案を募る国際コンペを実施

国内外のスタジアム建設費

以下の条件などから推計
①延べ床面積を新国立競技場と同じとする
②建設資材費や為替レートは現在の水準
③新国立で整備するバリアフリー対応などを追加
④消費税は8%

スタジアム	面積	建設費(当時)	政府が主張する補正後の金額
味の素スタジアム	8.6万㎡	307億円	1307億円
埼玉スタジアム2002	6.1万㎡	356億円	1918億円
日産スタジアム	17.3万㎡	744億円	1435億円
ロンドン五輪スタジアム	10.9万㎡	約4.29億ポンド	1474億円
シドニー五輪スタジアム	8.1万㎡	約6.9億豪ドル	1514億円
新国立競技場	19.5万㎡	建設費(予定)	1550億円

五輪後トラック消滅も

「暑さ対策なら、『かち割り氷』だつてある」。首相は夏の甲子園名物を挙げ、遠藤氏に冷房施設の断念を指示。「首相主導の政治決

結果、ロンドン(建設当時の為替レートで約650億円)は1474億円、シドニー(同約460億円)は1514億円との数字をはき出した。遠藤氏は、新計画で1350億円とした競技場の本体価格を念頭に「実質的にロンドンより安くなった」と主張した。国内にある競技場についても、補正を先行。味の素スタジアム(東京都調布市)は307億円が補正後1307億円、埼玉スタジアム(さいたま市)は356億円が補正後1918億円と、45倍以上に跳ね上がった。補正方法は「延べ床面積、建設物価の上昇、消費税率により補正し、さらに新国立競技場に固有の条件を上乗せした」という。

旧計画に反対し、屋根は観客席上部だけにして常設の観客席を6万人以内にするべきだとの対案を示していた建築家の横文彦氏は、「自分の案に近づき、格段に良くなった」と話した。ただ、常設席を6万8千人に抑えたことで、問題は生じそう。東京は招致段階で、選手の負担減のために開会式で行進後に客席に座れるようにすると公約した。日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長は「6万8千席で公約を守ろうとすれば、当然、観客用の座席は減る」。観客席の空調も取り付けられないことになったが、パラリンピック陸上の佐藤真海選手は「障害で体温調節が難しい方もいるので、暑さ対策もぜひ何らかの工夫をしてほしい」と要望した。

新計画では、旧計画の建設費も修正を加えた。未公表としていた関連工事費131億円を加えて総額2651億円と説明。隠していた批判されかねないが、「後からあれもこれもと出てきたらアウト」(関係者)と判断した。(山岸一生)

サッカー界歓迎

常設の8万人の席を持つことが条件のサッカーワールドカップ(W杯)の招致は国主導で話し合えないといけない(日本陸連の尾身真事務理事)と注文をつけた。コスト削減、簡素化ありきの姿勢に異議を唱える声も多い。日本バスケットボール協会の川淵三郎会長は21日、「なるべくごちんまりして、後々、大した利用価値が無くてもいいかのような印象が出てますけどそれは全然違う。世界に誇れるスタジアムを造ってほしい」と述べた。元陸上選手のためになるのかを明確にして欲しい。競技場を造ってどんな未来を作るのか」とコメントした。

ゼネコン様子見

業者の公募は9月1日に始まる。旧計画でスタンド部分を担当するはずだった大成建設は「国家的プロジェクトでもあり、ぜひ参加したい」(広報)と前向きだが、人手不足から「大型工事をさらにもう一件、とはなかなかならない」(大手の担当者)、「できるかどうか慎重に判断する」(鹿島)と多くのゼネコンは様子見の姿勢だ。(原田亜紀夫、阿久津篤史)